

# 笑顔と絆を育む「にっこり食堂」

地域のお母ちゃんたち(ボランティアすまいる)が運営する子ども食堂

いま、全国的な広がりを見せている子ども食堂。子ども食堂とは、子どもたちのために、無料または低額で食事を提供する食堂です。また、食事だけでなく、豊かな

食材による食育、さまざまな体験や学習の場、世代間交流、相談活動など多様な機能を持っています。今回は、町内でも「子どもたちの居場所を作りたい」「心を込めて作ったごはんを、みなさんに元



ここにこ食堂を運営するボランティアすまいるのみなさん。3月2日の食堂メニューは、お雛様御膳。参加してくれた人たちが喜んでくれるよう、味、盛り付けにとことんこだわります。

気になってほしい」そんな強い思いから、自分たちもやってみよう」と令和元年に子ども食堂(ここにこ食堂)をスタートさせた「ボランティアすまいる」のみなさんをご紹介します。すまいるのみなさんは、月に一回、地域の子もたちやその家族を対象に行事食や郷土料理を通して、温かな団らん場の提供をしています。

## 集合時間は4時間前

3月2日、この日の食堂メニューは、お雛様御膳。

「お疲れさま」「今日もよろしくの」元気なメンバーの声がかきこえる。今日は、食堂開店の4時間前。今日の段取りをみんな確認してから、それぞれの持ち場につきます。

この日のメニューは、お雛様にちなんでちらし寿司のほか、鶏のから揚げ、切干大根のナポリタン風、ワラビの煮物。子どもたちが好みそうなおかずだけでなく、家庭の味を感じられる煮物もあえて添えます。



スタッフ会議の様子。前回の振り返りは必ず行い、改善点は次の活動につなげます。細やかな気付きの多いこと。



カラーでお伝えできないのが残念。味、盛り付けにこだわり、愛情たっぷりのお弁当

## 季節を感じられる体験も



おこし作りは子どもも大人もほとんどが初体験。「うまいの～」 「その調子～」 スタッフに褒められて笑顔がこぼれます。

ここにこ食堂では、食事の提供だけでなく、季節を感じられる体験活動も行います。

この日は、親子でおこし作り体験。ふくらましたお米に黒砂糖と水あめを絡ませたものを、牛乳パックに押し入れ、固まったら青きなこをまぶしてカットします。簡単なようで結構力が入る作業。

「もっと力入れて押して～」 「よいしょよいしょ」声をかけあいながらの体験は、自然と表情がほころびます。

こうしたみんなで一緒に活動する時間が、少しずつ心の距離を近くするでしょう。長く参加している子どもたちは、スタッフのみなさんと家族のように接していました。



①おいしそうなお弁当60個分がずらりと並んだ光景 ②③「元気だった?」「来てくれてありがとう」お弁当を渡すときはひとり一人に笑顔で声をかけます ④おこしの下準備。大きな鍋からいい匂いが漂い厨房が和みます ⑤見栄えにも気を遣いながら手際よく盛り付け。みんなが喜んでくれますようにと心を込めて。



ボランティアすまいる代表  
大谷明子さん

ボランティアすまいるは、令和元年に「地域の子どもたちを支えたい」という思いから「ここにこ食堂」の運営をスタートして、今年で6年目を迎えます。これまでの5年間、地域のたくさんの方々を支えられ「ここにこ食堂」が地域の子どもたち、そして保護者のみなさんの居場所になっていると感じています。

これからも、さらにネットワークを広げながら「からだの栄養」だけでなく「こころの栄養」にもなるように、伝統食や体験活動など、幅広い内容で活動を実施していきたいと思っています。

スタッフの  
声



すまいるスタッフ  
加藤信子さん

子どもたちに笑顔を！という思いで活動していますが、スタッフも子どもたちから笑顔と元気をもらっています。自分たちの力を発揮する場があるということが、スタッフにとっても生きがいづくりや自己実現につながっています。地域で「共に支え合う」ことの大切さも日々感じています。



①



②



③



④



⑤

①助成金をいただいているキューピーみらいたまご財団、長南理事長の講演会開催 ②バケツに米ができた！喜びの収穫 ③子どもたちに大人気のキャップコインショップゲーム ④さつまいもの苗植え ⑤コロナ禍中はドライブスルー方式で手作り弁当を手渡し。

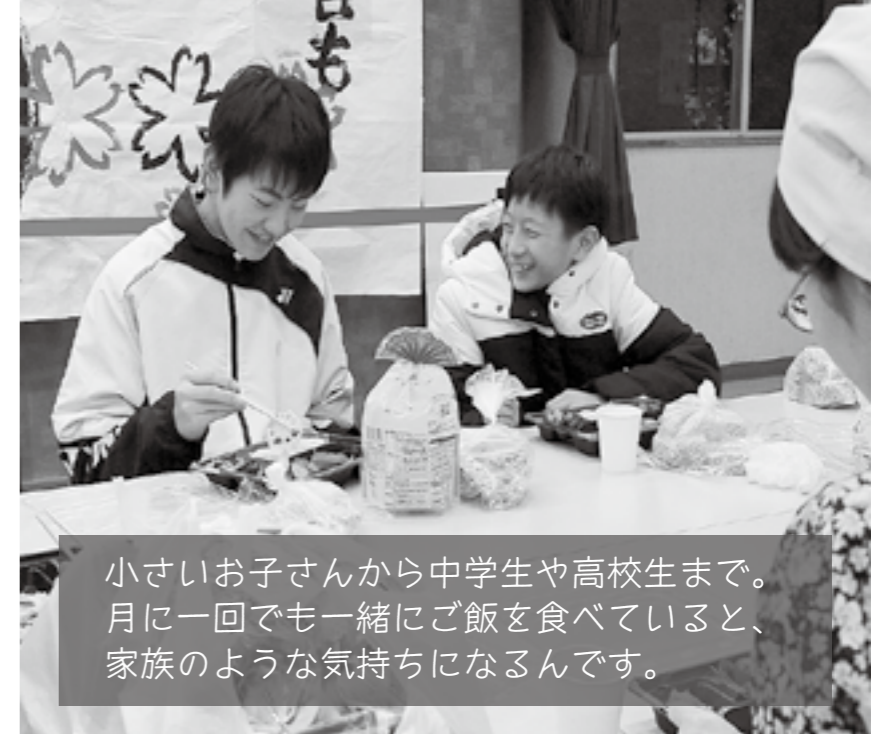
施しています。すまいるのみなさんの一番すごいところは、予算ゼロからのスタートで、活用できる助成金などを自分たちで探し出し、活動費用を捻出していること。自立した活動を続けるすまいるのみなさんの熱意が各方面に伝わり、活動を応援したいと、食材の提供や支援金も多くいただくようになったとか。ここにこ食堂の運営を通して、子どもたちの笑顔を見ることも幸せですが、自分たちが元気をもらっているのと□々に話すみなさん。「さあ次回はどんなご馳走で、どんな活動でみんなを楽しませようか：」ワクワクしながら相談しているすまいるのみなさんのにこやかな顔が浮かんできます。

会食のときは、スタッフも各テーブルに加わって、参加した家族との会話を楽しみます。その日のごちそうや学校のことなど、一生けん命話す子どもたちの話を、優しいみなさまでうなずきながら聞くスタッフのみなさん。食べ終わった後は、子どもたちも机や椅子の後片付けを率先して手伝っていました。

ここにこ食堂が開店する日は、食事の提供のほかに、必ず体験活動や遊びも行います。町の基幹産業である農業について学ぶ機会になればと、バケツで稲を栽培し、稲刈りまで行いました。子どもたちの一番人気は「キャップコインショップ」という遊びで、大人も子どもも一緒に楽しんでるそうです。

立上げ当初の利用者は14人でしたが、□コミで話題になり、現在は60人以上が利用しています。コロナ禍も休まず、ドライブスルー方式で手作り弁当の配布を行いました。ベビーカーやさつまいもの栽培キットをプレゼントして食育活動を行ったり、料理講習や研修、全国の子ども食堂のみなさんとオンラインで意見交換も実

みんなでいただきます



小さいお子さんから中学生や高校生まで。月に一回でも一緒にご飯を食べていると、家族のような気持ちになるんです。



さまざまなたく体験活動を

ここにこ食堂で自分も成長

参加者の  
声



3年くらい前から参加しています。ごはんがおいしくて家族で来るのをいつも楽しみにしています。年代の違う人たちと交流できるのもありがたいなと思っています。



毎月家族で参加するのがルーティンになっています。庄内ならではの体験をさせていただけるのも楽しく、いつもスタッフのみなさんの温かさが伝わってきます。

すまいるDATA

活動場所/余目第三まちづくりセンター

開催日時/毎月第1土曜日

17:00~19:00

対象/庄内町在住の子どもとその保護者

参加費/子ども無料

大人(高校生以上) 200円

連絡先/0234-42-3438 (大谷)

※ここにこ食堂は、事前に申し込みが必要です。



ここにこ食堂はどなたでも大歓迎です!!

「ここにこ食堂に参加したい」「すまいると一緒に活動したい」方は連絡先までご連絡ください。

すまいるではInstagramで活動の様子を紹介しています。右の二次元コードからご覧ください。

